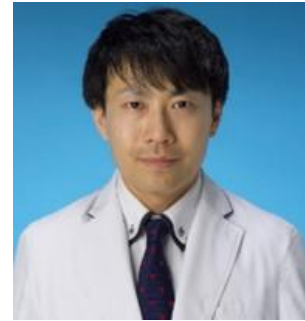


International Observership in HBP Surgery に参加して

獨協医科大学 肝・胆・膵外科

清水崇行



私は、2022年8月から2024年6月までの1年10か月の間、日本肝胆膵外科学会 International Observership Program の第13回留学生として、アメリカのカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の腫瘍外科で臨床留学をさせていただきました。

私が UCLA を留学先にした理由は、膵臓疾患に特化した診療チームがあり、膵癌の Neoadjuvant Therapy に関する Clinical Trial が行われているためです。留学先では、Timothy Donahue 教授のもとで、主に膵臓癌に関する手術や外来を見学し、臨床研究に参加しました。

私のメンターである Donahue 教授は、UCLA の Surgical Oncology の主任教授であり、世界的に広く利用されている National Comprehensive Cancer Network (NCCN) guideline の膵臓癌の編集委員の1人です。また、UCLA の複数の診療や教育プログラムの代表であり、大型の研究費を多数獲得し、多くの研究者たちと共に巨大な研究室で、膵臓癌の腫瘍免疫に関する Translational research を行っていました。私の留学期間中に、Donahue 教授は日本やイギリスの学会に招待され、自身の臨床試験について

講演されてきました。そして、彼はアメリカの最も権威ある外科の学術組織の1つである Society of University Surgeons の会長を務め、会長を担当した 2023 年度には、現代アメリカの医療における学術的使命の維持に力を注ぎました。さらに、手術に関しても、名医として世界的に有名であり、アメリカだけでなく、他国からも彼の手術を希望される患者さんもいました。

留学期間中に、門脈あるいは動脈再建を伴う膵手術も数多く見学する機会をいただきました。Donahue 教授は、Bookwalter Retractor を用いて、小さな開腹創であっても十分な視野でかつ LigaSure Maryland を器用に使いこなし、膵頭十二指腸切除術を行っていたのが印象的でした。Donahue 教授の手術手技は、非常に丁寧であり、止血を細めに行うことで、出血量も最小限に留められていました。また教育にも非常に熱心であり、自身の手術ではチーフレジデントを第一助手にして、手術を教える他に、胆管空腸吻合と胃空腸吻合をチーフレジデントに任せることで、術者としての責任感も教えていました。また、Girgis 准教授と King 准教授によるロボット支援下膵切除にも参加させていただきました。特にロボット支援下膵頭十二指腸術では、従来の開腹手術とは異なる新しい手術手技や再建方法を学ぶことができました。

一方、外来見学では、外科医をはじめとする各種専門医・看護師・栄養士・各種コーディネーター・ソーシャルワーカーが Zoom で集まり、外来前に Multi-Disciplinary meeting を行っていました。ここでは、新患の治療方針だけでなく、臨床試験の参加に

ついて相談しており、効率の良さを感じました。Donahue 教授は、研修医と医学生に自身の患者さんに問診をさせ、その内容を診察前に発表させることで教育をしていました。また、Donahue 教授がよく患者さんにかける言葉で、“Our goal is to cure you.” “One step at a time.” “I’m on your team.” がありました。患者さんの気持ちに寄り添う彼の暖かい言葉は、私にとってとても印象的な言葉でした。私自身は、切除境界型膵癌と局所進行型膵癌に対して術前化学療法を行った症例について、Donahue 教授と何度も討論する機会をいただきました。外来診療での見学の中、膵癌に対する術前化学療法の治療方針や治療期間が日本とアメリカでは異なっていることを知ることができました。両者の違いを学ぶことで、今後の術前化学療法の実践に役立つ多くの経験を得られ、後述する自身の臨床研究のテーマの参考にもなりました。

私が参加した臨床研究の主なテーマは、術前治療を行った膵臓癌に対する術後治療の必要性の有無に関するものでした。第 11 回留学生の前田晋平先生と治験コーディネーターの Ms. Deranteriassian のご協力をいただき、Donahue 教授は、UCLA・Johns Hopkins Hospital・Massachusetts general Hospital の 3 施設の膵臓癌の治療データを私に提供してくれました。研究の結果、術前治療した膵臓癌の症例の中で、術前治療期間が短い（4 か月未満）・外科的切除断端が陽性の症例は、術後さらに化学療法を行うことで、死亡するリスクを有意に減少できることを明らかにしました。この研究成果は、2023 年 10 月にアメリカのサンディエゴで行われたアメリカ膵臓学会で発表さ

れ、国際的な外科の学術誌である「Surgery」に論文として出版されました。この学会発表の際、私のポスター発表を訪れていただいた UCLA の Hines 教授に大変感謝申し上げます。また、このデータベースを用いて、「膵癌の術前治療における手術に移行する最適なタイミングの解析」と「膵癌の術前治療における体幹定位放射線治療と従来の化学放射線療法の比較」について研究を行い、現在投稿に向けて、準備しております。

また上述した研究以外にも、Donahue 教授は、外科研修医と協力する機会を与えてくれました。Link 准教授や外科研修医の Dr Labora, Dr Premji, Dr Chevru, Dr Park と協力し、彼らの臨床研究のプロジェクトに貢献することができました。UCLA の外科研修医は毎年 1400 人が応募して、7 人しか選ばれない狭き門です。そのため、若い彼らは頭脳明晰だけでなく、人格面でも非常に優れていました。研究の打ち合わせで私がつけていけないことがあっても、彼らはいつも私に親切に教えてくれました。さらに、彼らが私では思いつかなかったアイデアを何度も提案してくれたおかげで、研究を進めることができました。彼らとの研究の経験から、たとえ第一言語が異なっても、自分に求められている仕事を誠実に行うことで、お互いを尊重する良好な協力関係を築けることを学びました。このとき彼らと研究させていただいた経験は、私にとってかけがえのない貴重な経験でした。

今回留学するにあたり、妻と 3 人の子供も一緒に渡米しました。長男と次男は、平

日はロサンゼルス市の公立の小学校で英語を学び、土曜日は日本語の補習校で日本語を学んでいました。また、三男は、公立の幼稚園で英語を学んでいました。子供たちは、最初の1年目は、英語の授業についていけず、泣いてしまう時もありましたが、2年目は日本人以外の友達もできて、英語での学校生活を楽しんでいました。また、妻と私も子供の学校を通じて、現地の保護者の方々にロサンゼルスでの生活のアドバイスを頂き、助けていただきました。留学中は、自身の仕事や研究にだけ集中すればよいのではなく、慣れない環境で過ごす家族への気遣いが何よりも大切であることに気づかされました。

海外留学中に様々な留学生と出会い、留学する場所や時期によって、出会える人々や研究でもさえも大きく異なると感じました。言葉や文化が異なる場所で生活することは大変なことも多いですが、自分だけの物語を経験できることが、海外留学の魅力だと思います。私の報告書を読んでいただいた先生方が、海外留学に興味を頂ければ幸いです。最後に、この素晴らしい留学制度を創設してくださった高田先生、江口晋教授をはじめとする日本肝胆膵外科学会の国際交流委員会の先生方、留学前から助けていただいた日本肝胆膵外科学会の事務局の上大谷さんと前田晋平先生に感謝いたします。また私の留学を快く受け入れていただいた Donahue 教授やその他全ての UCLA のスタッフの方々にも感謝いたします。さらに、今回の留学に手厚くご支援いただき、留学期間の延長を受け入れてくださった獨協医科大学 肝・胆・膵外科教室の青木

琢主任教授、同教室の医局員の先生方や医局秘書さん、そして家族に心から感謝いた
いします。

写真1. ロナルド・レーガン病院で、Timothy Donahue 教授と写真

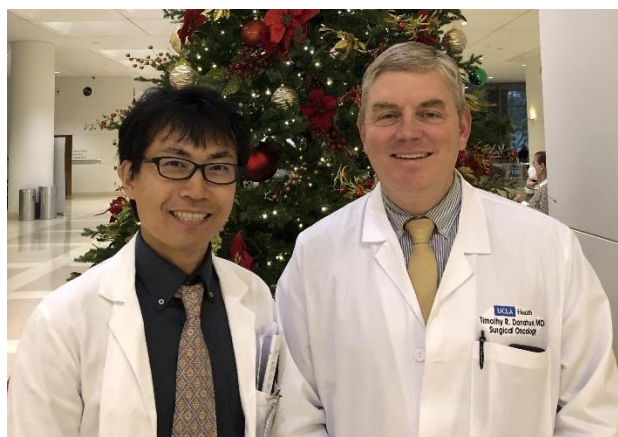


写真2. アメリカ膵臓学会のポスター発表で、Joe Hines 教授と写真

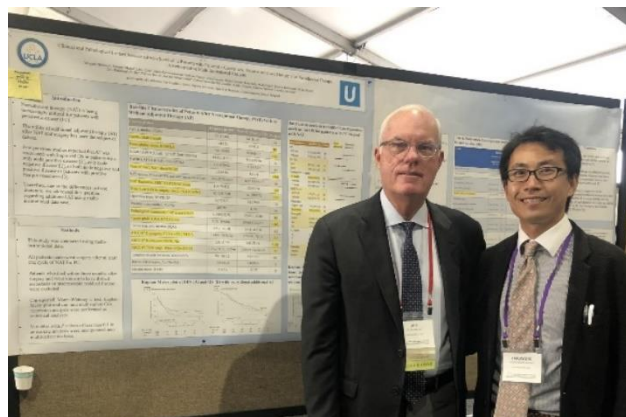


写真3. アメリカ膵臓学会で、Johns Hopkins University Jin He 教授と写真



写真4. アメリカ膵臓学会で、Cedars Sinai Cristina Ferrone 教授と写真



写真5. Holiday Party で、Mark Girgis 准教授と写真



写真 6. 手術室で、Jonathan King 准教授と写真



写真 7. 研究室で、Jason Link 准教授と写真

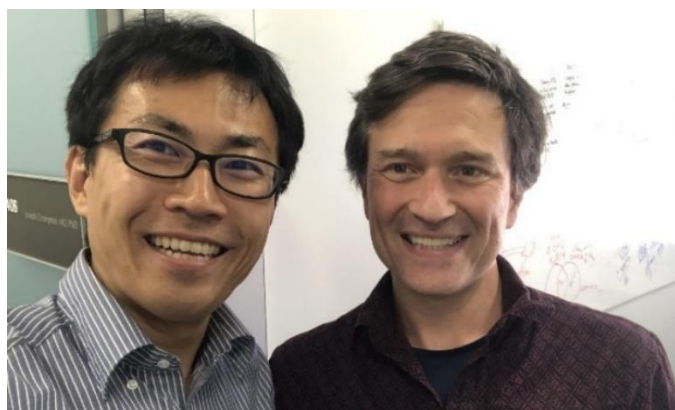


写真 8. 外科研修医の Michael Mederos 先生と写真



写真 9. 外科研修医の Alykhan Premji 先生と写真



写真 10. 手術室で、お世話になった看護師さんたちと写真



写真 11. 手術室の看護師さんたちとのお別れ会の写真

